

尾張・知多

ジョイント専門メーカーの協和工業(本社大府市横根町坊主山1の31、電話0462・47・1241)は、冷間鍛造による車両向けユニバーサルジョイントで12年に「素形材産業技術表彰・中小企業庁官賞」と「愛知環境賞・優秀賞」を相次いで受賞した。従来の切削加工から冷間鍛造への大胆な加工方法の転換が、多方面から評価され始めた。鬼頭佑治社長に受賞技術や今後の展開を聞いた。

(大府)

「冷間鍛造によるジョイントの優位性は、」

「当社のユニバーサルジョイントは、自動

先見明言

協和工業社長

鬼頭 佑治氏

(きとう・ゆうじ)

車のステアリングに使用される継ぎ手。基本

冷間鍛造継ぎ手を高度化



「形をつくるのではなく性能をつくる」と語る鬼頭社長

て工数を減らし、廃水処理が大幅に削減できる高性能・高剛性ジョイントを可能にした」

性能に関わる重要な保間鍛造でつくる意味が安部品だ。ガタがくるある」と

「ジョイントは構成部品は金型や熱処理、組み立てまで内製をゼロにできないか。潤滑材塗布工程を内製化するため、設備半分にできないか。2」

「ガタをなくすための部品は形状や生産コストを独自開発した。加工倍の価値にできない精度を高めなければならぬ。このために冷間鍛造で量産することは不可能とされていた。し

「生み出す方法は、」

「今やっていること」

「コスト競争力アップ」

自動車以外も開拓へ

「0、2分の1、2」を念頭に置く。プロジェクト方式の開発会議を毎月開催して各部署の社員が情報を共有し、コミュニケーションを図っている」

「今後の課題は、」

「10年にタイ、11年に中国で工場の操業を開始した。コア技術は日本に残しながら機械加工と組み立ては海外で行い、自動車関連メーカーの現地調達に対応していく。産業用ロボットなど、自動車以外への用途開発も積極化する。メーカーから図面をもらって単に加工するのではなく、性能を向上してこそ評価される」